

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：15501

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）

研究期間：2018～2023

課題番号：18KK0009

研究課題名（和文）エチオピア諸語の記述とドキュメンテーション：ソーシャル・イノベーションにむけて

研究課題名（英文）Description and documentation of Ethiopian languages: Towards a social innovation

研究代表者

乾 秀行（Inui, Hideyuki）

山口大学・人文学部・准教授

研究者番号：10241754

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はエチオピアの少数言語に焦点を当てて、3つの相互に関連する研究を行った。(1)エチオピアの少数言語の文法記述、(2)少数言語の言語学的及び文化的遺産である民話などの談話資料を収集し、そこに音転写・翻訳・形態素の注釈をつけたコーパスおよびドキュメンテーションの作成、(3)収集した民話などのコーパスに基づいて読み物テキスト、3言語（英語、アムハラ語、少数言語）の語彙集、絵付き単語カードを作成し、少数民族に母語教材として提供することで、少数民族の言語共同体のソーシャル・イノベーションを図った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

(1)エチオピアの少数言語の文法記述およびドキュメンテーションを作成し、その研究成果としてドキュメンテーションから作成した読み物テキスト、3言語対応の語彙集、絵カードを提供することで、言語研究を少数言語社会に還元し、言語共同体のソーシャル・イノベーションに貢献した。

(2)、ELAN ファイルから ウェブ上で画像・動画を共有するための国際的枠組みである IIIF 準拠形式への変換することで、ELAN 形式で作成したアノテーション付きのドキュメンテーションデータのアーカイブから半自動的に母語教材提供というシステムを実用レベルで提供できる可能性を示した。

研究成果の概要（英文）：The project focused on little-known languages of Ethiopia and had three inter-related objectives: (1) Describing the grammatical aspects of Ethiopian languages; (2) Documenting the linguistic and cultural heritage of the communities by way of collecting, recording, transcribing, translating selected aspects of the folklore; (3) Preparing reading materials for school children and adult literacy learners based on the linguistic corpora to be collected on selected genres of the folklore, and making available materials on the linguistic descriptions of these languages to local authorities and practitioners who will design practical orthographies and prepare teaching materials in the local languages under discussion and in effect contributing to the social innovations such as mother tongue education efforts being underway by local authorities.

研究分野：言語学

キーワード：エチオピア 少数言語 ドキュメンテーション 母語教材 社会言語学

1. 研究開始当初の背景

エチオピアには80を超える言語があり、それらは4つの系統(セム、クシ、オモ、ナイルサハラ系)に属し、社会言語学的背景も非常に複雑である。とりわけ我々が調査する南西部の南部諸民族州及びベニシャングル・グムズ州は少数言語が数多く密集している地域である。

歴史的にはセム系民族がアラビア半島からエチオピアに流入し、土着民族との間で大きな言語接触があったとされる。そのため、土着のクシ系・オモ系言語に関しては、内部において系統的な位置づけに関して不明な点が多く、十分な言語調査が進んでいない言語も多い。さらにナイルサハラ系に関しては、調査が難しい辺境地域に点在しているため、相対的に研究が遅れている。

社会言語学的には、エチオピアではアムハラ語があらゆる場面での作業語として大きな地位を占めており、他の言語話者はアムハラ語との二言語併用を余儀なくされている。また、少数言語密集地域では近隣言語や他の有力言語(アラビア語、オロモ語、ティグリニヤ語など)との多言語併用環境が常態化している。このような中、初等教育では、国として各言語の教育が保証されているにも関わらず、教育現場ではアムハラ語による教育が進み、少数言語の母語教育は十分な環境を整備することができない状態にある。したがって弱小の少数言語であればあるほど、急速な勢いで言語交替が進み、危機言語として将来性が危ぶまれている。

我々の研究グループは、長年エチオピアにおける少数言語の記述研究を行う中で、言語学者の役割として単に言語研究の発展に寄与するだけではなく、調査言語の言語共同体に暮らす人々にとって我々の研究がどう貢献できるのか、今回海外研究者として正式に加わったエチオピア人研究者とともに、研究成果の社会への還元を強く意識してきた。これはエチオピアという多言語国家が抱えた、言語政策上の極めて繊細な政治問題である。エチオピア人研究者によれば、少数言語母語教材の中でも、読み物テキストが圧倒的に不足していて、ドキュメンテーションの収集こそが最も重要であるという。そこで十分な母語教育環境にない少数言語(危機言語)話者のソーシャル・イノベーションを図るため、彼らとの共同研究をこれまで以上に進める本研究を着想するに至った。

2. 研究の目的

本研究はエチオピア少数言語を対象に、エチオピア人研究者と共同で現地調査を行い、以下の相互に依存する3つの研究目的を遂行する。

- (1) 消滅の危機にあり、これまで十分な調査がされていない少数言語の文法記述を行う。
- (2) 民話などの談話資料を動画および音声で収集し、言語研究における利用頻度の高い動画アノテーション付与ソフトウェアELANを用いて、それらにIPA(国際音声記号)による音転写、英語・アムハラ語への翻訳、形態素のグロスを付与し、コーパスおよび言語共同体の言語学的・文化的遺産となるドキュメンテーションを作成する。
- (3) 収集した民話の言語学的コーパスに基づいて、母語教育のための材料を準備し、少数民族の母語教育に関わる言語共同体当局と協議して、彼らが求める実用的な正書法を設計し、それに基づく母語教材の提供をすることで、少数民族の言語共同体のソーシャル・イノベーションを図る。

3. 研究の方法

調査研究は、南部諸民族州、ベニシャングル＝グムズ州およびアムハラ州において各少数言語話者が暮らす主要都市で行った。対象言語は、セム系グラゲ諸語の一つであるマスカン語、オモ系バスケット語、ハマル語、バンナ語、カラ語、チャラ語、ナイ語、クシ系ソマリ語、アルボレ語、ナイルサハラ系ベルタ語、ニャンガトム語である。メンバーは現地調査に際して、基礎語彙の収集、文法記述をすると共に、ドキュメンテーション作成を共通課題とした。

母語教材としては、収集したドキュメンテーションから作成する読み物テキストに加えて、3言語(英語、アムハラ語、少数言語)対応の語彙集、3言語(英語、アムハラ語、少数言語)対応の絵カードを作成する。

4. 研究成果

4.1. 調査研究

(1) これまで十分な言語記述がされていないエチオピアの少数言語セム系マスカン語、オモ系バスケット語、ハマル語、バンナ語、カラ語、チャラ語、ナイ語、クシ系ソマリ語、アルボレ語、ナイルサハラ系ベルタ語、ニャンガトム語の語彙・文法記述、談話テキストの収集を行った。また、アラブ首長国連邦にてエチオピアを含むアフリカの角諸国の移民コミュニティの社会言語学的実態に関するフィールド調査を実施した。以下、日本人研究者毎の研究成果を列記する。

(2) バスケト語の名詞に接辞する形態素を情報構造の観点から分析した。これに加えて、指示詞、ヴォイス、関係節構造を類型論的観点から考察した。

(3) ハマル語、バンナ語の比較を通じて、文法記述の枠組みの再検討を行った。特に動詞類に関しては、これまで注目されたことのない「否定形のみ人称変化する動詞形態」についての体系的検討を行った。また名詞類に関しては、統語論的に名詞句として出現するパターン（いわゆる名詞句用法、修飾用法、数量用法、関係節用法など）を網羅し、名詞類の総合的な形態論の記述を行った

(4) ベニシャングル・アラビア語は言語学コミュニティでは認知されてこなかった言語変種であり、エチオピア言語地域に属する諸言語と部分的に共有特徴を発達させていることを明らかにした。また、民族語と共通語の2言語を、それらの対応に関するメタ言語的認識を含めて同時に記述するという、これまでにない言語記述の方法論を試行した。これに加え、文献資料に基づきエチオピア諸語を含むニールサハラ語族の諸言語に関する地理言語学的研究を行い、動植物語彙、キョウダイ語彙、数詞、文法関係、破裂音体系についてその成果をまとめた。

(5) エチオピア諸語の焦点構文に関する研究を進めた。助詞による焦点標示が義務的な言語であるソマリ語について、同様の特徴をもつ琉球宮古語における焦点構文との対照研究を行い、焦点助詞の生起位置と焦点範囲の関係、また焦点助詞がもつモダリティ・文タイプ特性などについて両言語を対照した。また、アムハラ語の焦点構文の特徴についてエチオピア人研究協力者と共に調査・分析を進めた。

(6) マスカン語の民話データを用いて、Differential Object Marking についてトピック性という観点で、テキスト全体の文脈に注目して分析を行った。

4.2. ドキュメンテーション作成

(7) オモ系バスケト語、チャラ語、ナイ語、クシ系アルボレ語、ソマリ語、ニールサハラ系ニヤンガトム語の民話等の談話資料を音声および動画で収集し、動画アノテーションソフト ELAN を用いて IPA (国際音声記号) による音転写、英語・アムハラ語への翻訳、形態素のグロスを付与した。これらをコーパス及び音声や動画と合わせたドキュメンテーション資料として保存している。

(8) ELAN ファイルをウェブ上で画像・動画を共有するための国際的枠組みである International Image Interoperability Framework (IIIF) 準拠形式に変換する仕組みを考案した。すなわち、ELAN で作成したアノテーション付き動画を、字幕付き動画として IIIF ビューワ「Mirador」に表示させる一連の仕組みと、母語教材としての利用に最適化した IIIF ビューワの開発を行った。この仕組みでは IIIF マニフェストだけでなく、TEI/XML、XHTML、TTML、WebVTT などの副次的データもまとめて生成できる。ビューワの技術的詳細については Mirador Video Annotation Version (<https://dev.jael.info/mirador3va/>) として、また、ビューワで表示できる動画データについては Ethiopian Language Archive (ELA) <<https://dev.jael.info/documentation/>> (総時間約 5 時間 (295 分 22 秒)) として公開した。

Language	amount	seconds	(minutes)
Arbore	12	4336	(72m16s)
Nyangatom	13	4020	(67m0s)
Nayi	14	3321	(55m21s)
Kurima (Miyako, Japan)	1	66	(1m6s)
Somali	10	1607	(26m47s)
Tsara	4	696	(11m36s)
Basketo	6	3676	(61m16s)
Total		17722	(295m22s)

4.3. 母語教材

(9) バスケト語、チャラ語、ナイ語の語彙集(約 2,000 語)を作成した。

(10) 556 語の基礎語彙(名詞、動詞、形容詞、数詞等)を選定して絵カードを作成した。英語とエチオピアの作業語であるアムハラ語訳を裏面に載せ、少数言語は正書法を持たないので、下線のみを付けた仕様になっている。学校現場で使えるように A4 サイズの大きさを作成し、エチオピア南西部主要都市ジンカにある初等教育の管理局に贈呈した。また、絵カードを自由に利用できるようウェブサイトを整備した (<https://jael.info/>)。

(11) ハマル語・バンナ語、およびカラ語の 3 言語語彙集の作成を開始した。作成にあたっ

ては、人文学資料をデジタル化するための国際的枠組み TEI (Text Encoding Initiative) に従い、XML 形式の語彙データとしている。さらにハマル語、バンナ語の書字法に関する調査を行った。両言語とも正書法は確立されていない。バンナ語に関しては、SORC (South Omo Research Center) が発行したアムハラ文字による簡単な語彙集と民話テキスト(出版年不明) および、SIM International (旧 Sudan Interior Mission) によるローマ字の新約聖書(2015年) が、比較的多くの人々に知られてはいることが判明したが、それらを正書法の手本として用いるという段階には至っていない。

(12) 収集したベニシャンゲル・アラビア語についてその基層言語であるベルタ語のラテン文字正書法、およびアラビア文字による表記を開発し、収集した談話テキストを編集して母語教材の素材を作成した。

4.4. その他

(13) 計5回の国際ワークショップを開催し、エチオピア人研究者と共に、少数言語の文法記述、正書法、母語教材作成、ドキュメンテーション及び IIF (Mirador)、アムハラ語の焦点構造をテーマに研究発表及び協議を行った。

(14) メンバー及びエチオピア人研究者はオンラインジャーナル Studies in Ethiopian Languages に研究成果を発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計38件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 Nakao, Shuichiro	4. 巻 なし
2. 論文標題 [+constrict glottis] reflexes of t and q in contact situations: Contact-induced change or inheritance?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Guram Chikovani & Zviad Tskhvediani (eds.) Studies on Arabic dialectology and sociolinguistics: Proceedings of the 13th AIDA International Conference. Kutaisi: Akaki Tsereteli State University.	6. 最初と最後の頁 387-396
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 地域ごとの言語と文字 (アラブ)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 イスラーム文化事典編集委員会編 『イスラーム文化事典』丸善出版	6. 最初と最後の頁 300-301
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 社会言語学 (中級): アラビア語ピジン・クレオール研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本言語学会 『日本言語学会夏期講座 2022 Seminar Handbook』	6. 最初と最後の頁 204-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 高橋洋成, 永崎研宣, 本間淳	4. 巻 2022-CH-129(3)
2. 論文標題 IIFビューワ「Mirador 動画アノテーション対応版」の改良: 動画アノテーションツールELANとの連携を目指して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文科学とコンピュータ研究会報告	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋洋成	4. 巻 8
2. 論文標題 イザヤ書65章20節の翻訳に関する覚え書き	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『New聖書翻訳』	6. 最初と最後の頁 29-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inui, Hideyuki	4. 巻 2021
2. 論文標題 Passive in Basketo	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The 2nd International Conference on Omotic Studies	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋洋成	4. 巻 7
2. 論文標題 聖書協会共同訳における旧約の訳語目録稿 (2) : 部族用語・軍사용語・役職用語に関連する定型表現	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 New聖書翻訳	6. 最初と最後の頁 1-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋洋成, 遠藤佳那子	4. 巻 7
2. 論文標題 聖書翻訳におけるヘブライ語動詞連鎖の訳出 : 口語訳から聖書協会共同訳の実践へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 New聖書翻訳	6. 最初と最後の頁 113-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 -
2. 論文標題 アラビア語の「開放」:「スーダン文化」形成史によせて」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 藤井真一・川口博子・村橋勲(編)『サバンナの彼方 栗本英世教授退職記念文集』	6. 最初と最後の頁 170-177
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村橋勲・仲尾周一郎	4. 巻 176
2. 論文標題 留学という旅 日本の南スーダン人	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 34-41
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 9
2. 論文標題 ベニシヤングル・アラビア語の民話テキスト	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Studies in Ethiopian Languages	6. 最初と最後の頁 27-47
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakao, Shuichiro	4. 巻 1
2. 論文標題 Sub-grouping of Nilo-Saharan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Studies in Asian and African Geolinguistics	6. 最初と最後の頁 21
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakao, Shuichiro	4. 巻 1
2. 論文標題 Stop Series in Nilo-Saharan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Studies in Asian and African Geolinguistics	6. 最初と最後の頁 62-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 5
2. 論文標題 日本語の「のだ」とアラビア語 'inna	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 外国語教育のフロンティア	6. 最初と最後の頁 85-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakao, Shuichiro	4. 巻 2
2. 論文標題 Grammatical relations in Nilo-Saharan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Studies in Asian and African Geolinguistics II: Grammatical Relations	6. 最初と最後の頁 36-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村覚・永井正勝・和氣愛仁・高橋洋成	4. 巻 2021-CH-125(3)
2. 論文標題 ヒエラティックとヒエログリフの対応関係の再検討に基づくHieratische Palaeographie DBの更新	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文科学とコンピュータ研究会報告	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村寛・永井正勝・和氣愛仁・高橋洋成	4. 巻 2020
2. 論文標題 Hieratische Palaeographie DBの構築	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集	6. 最初と最後の頁 191-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋洋成	4. 巻 6
2. 論文標題 聖書協会共同訳における旧約の訳語目録稿 (1) : 王国時代の役職用語と関連語	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 New聖書翻訳	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakao, Shuichiro	4. 巻 35(1)
2. 論文標題 Review: Arabi Juba: Un pidgin-creole du Soudan du Sud. Stefano Manfredi. Paris: Peeters. 2017.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Pidgin and Creole Languages	6. 最初と最後の頁 180 - 183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/jpcl.00051.nak	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakao, Shuichiro	4. 巻 18
2. 論文標題 BOOK REVIEW: Takeda, Toshiyuki, Gendai Arabiago no Hatten to Arabu Bunka no Shin-jidai: Wangan-shokoku, Ejiputo kara Mauritania made [Development of Modern Arabic and the New Era of Arab Culture: From the Gulf states, Egypt, up to Mauritania] (Kyoto: Nakanishiya Shuppan, 2019). 366pp.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アラブ・イスラム研究	6. 最初と最後の頁 137-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 2021
2. 論文標題 ジュバ・アラビア語におけるトーンのふるまい	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 梶茂樹 (編) 『アフリカ諸語の声調・アクセント』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	6. 最初と最後の頁 67-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakao, Shuichiro	4. 巻 2021
2. 論文標題 Convivial multilingualism as a modern African ethos: Cases of East African non-Arab Arabophone societies	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Keiko Takemura & Francis Nyamnjoh (eds.) Dynamism in African Languages and Literature: Towards Conceptualisation of African Potentials. Bamenda: Langaa RPCIG.	6. 最初と最後の頁 19-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 4
2. 論文標題 アラビア語「発音」教育に寄せて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外国語教育のフロンティア	6. 最初と最後の頁 297-312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 9
2. 論文標題 ベニシャングル・アラビア語の民話テキスト	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies in Ethiopian Languages	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 2021
2. 論文標題 都市言語の中のスラング	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 横浜国立大学都市科学部（編）『都市科学事典』春風社	6. 最初と最後の頁 896-897
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inui, Hideyuki	4. 巻 54
2. 論文標題 Nominals suffixes as markers of information structure in Basketo	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies in African Languages and Cultures	6. 最初と最後の頁 97-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32690/SALC54.4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Inui, Hideyuki	4. 巻 54
2. 論文標題 Nominal suffixes as markers of information structure in Basketo	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies in African Languages and Cultures	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 HARA Shogo, Gebriel Alazar, SUZUKI Kota, IKEDA Jun	4. 巻 8
2. 論文標題 Notes on Afar Verbal Morphology	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in Ethiopian Languages	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高橋洋成	4. 巻 5
2. 論文標題 Pasa graphe theopneustos : 聖書の解釈と正典の意味に関する覚え書き	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 New聖書翻訳	6. 最初と最後の頁 22-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋洋成	4. 巻 -
2. 論文標題 イエスの時代の言語生活：イエスは何語を使ったか？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ユダヤ教とキリスト教	6. 最初と最後の頁 11-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakao, Shuichiro	4. 巻 8
2. 論文標題 Fundamental Dialogues in Berta/Funj	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in Ethiopian Languages	6. 最初と最後の頁 20-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 3
2. 論文標題 アラビア語における動詞連続 言語類型論的視点の外国語教育への応用試論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外国語教育のフロンティア	6. 最初と最後の頁 265-283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池田潤	4. 巻 5
2. 論文標題 現代ヘブライ語と標準語	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 170-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋洋成	4. 巻 13
2. 論文標題 『イスラエルの子ら』と『全イスラエル』：旧約聖書に見られる2つの自己同一性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地球システム・倫理学会会報	6. 最初と最後の頁 127-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋洋成	4. 巻 21
2. 論文標題 エチオピア少数言語の多様な言語実態を探る	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 フィールドプラス	6. 最初と最後の頁 20-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shuichiro Nakao	4. 巻 6
2. 論文標題 Mountains do not meet, but men do: Music and sociocultural networks among Arabic creole-speaking communities across East Africa	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Arabic in Contact (Studies in Arabic Linguistics)	6. 最初と最後の頁 275-294
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 16
2. 論文標題 周縁アラビア語における喉頭化音 アラビア祖語強調音の再建に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アラブ・イスラム研究	6. 最初と最後の頁 71-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲尾周一郎	4. 巻 2
2. 論文標題 アラビア語教育における「音韻規則」の扱いについて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 外国語教育のフロンティア	6. 最初と最後の頁 335-353
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計62件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 14件)

1. 発表者名 Shuichiro Nakao
2. 発表標題 System of 'Sibling' terms in Nilo-Saharan
3. 学会等名 AA研共同利用・共同研究課題：アジア・アフリカ地理言語学研究 2022年度 第1回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 規範を記述する：ジュバ・アラビア語談話におけるメタ言語活動を例に
3. 学会等名 AA研共同利用・共同研究課題：多言語混在状況を前提としたアフリカ記述言語学研究の新展開 2022年度第1回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shuichiro Nakao
2. 発表標題 Benishangul Arabic: An indigenous variety of Arabic in Ethiopia
3. 学会等名 Workshop on Descriptive studies of Ethiopian languages (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shuichiro Nakao
2. 発表標題 Numeral systems in Nilo-Saharan
3. 学会等名 AA研共同利用・共同研究課題：アジア・アフリカ地理言語学研究 2022年度 第2回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yuka Hayashi
2. 発表標題 Notes on a contrastive study of focus construction in Miyako Ryukyuan and Somali
3. 学会等名 Workshop on Descriptive studies of Ethiopian languages (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Binyam Sisay Mendis, Yuka Hayashi, Hideyuki INUI, Yona Takahashi, Shogo Hara
2. 発表標題 Round Table Discussion:ELAN and IIIF
3. 学会等名 Technical Workshop on ELAN and IIIF for Language Documentation (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hideyuki Inui
2. 発表標題 Relative clause constructions in Basketo
3. 学会等名 Workshop on Descriptive studies of Ethiopian languages (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Binyam Sisay Mendis, Hideyuki Inui, Shinichiro Nakao, Shogo Hara, Yona Takahashi
2. 発表標題 Round Table Discussion: Teaching Materials and Orthographies for Ethiopian Minority Languages
3. 学会等名 Workshop on Teaching Materials for Ethiopian Languages (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Binyam Sisay Mendis, Shinichiro Nakao, Yuka Hayashi, Shinya Iwatsuki, Shogo Hara
2. 発表標題 Round Table Discussion: Focus construction in Amharic
3. 学会等名 Workshop on Descriptive studies of Ethiopian languages (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋洋成, 永崎研宣, 本間淳
2. 発表標題 IIIFビューワ「Mirador 動画アノテーション対応版」の改良: 動画アノテーションツールELANとの連携を目指して
3. 学会等名 第129回人文科学とコンピュータ研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takahashi, Yona
2. 発表標題 Using Mirador
3. 学会等名 Workshop on Teaching Materials for Ethiopian Languages (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Inui, Hideyuki
2. 発表標題 Passive in Basketo
3. 学会等名 The 2nd International Conference on Omotic Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 乾秀行
2. 発表標題 バスケット語の語アクセントとイントネーション
3. 学会等名 エチオピア諸語研究会2021年度第1回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 乾秀行
2. 発表標題 バスケット語の関係節構造における定性標示{-d-}の機能
3. 学会等名 エチオピア諸語研究会2021年度第2回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋洋成
2. 発表標題 ハマル語とバナナ語との動詞形の比較：人称変化しない肯定形、人称変化する否定形
3. 学会等名 東京アフリカ言語学研究会2021年度第6回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋洋成
2. 発表標題 ハマル語とバナナ語との動詞形態の分類
3. 学会等名 エチオピア諸語研究会2021年度第1回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takahashi, Yona, Inui Hideyuki
2. 発表標題 Round Table Discussion: Material Circulation and Local Knowledge II: With Special Reference to the Concept of Soil in the Omotic Languages
3. 学会等名 International Workshop on Aari Language of Omotic Family: Understanding the Recognition of Materiality and Environment (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋洋成
2. 発表標題 Mirador 3 動画アノテーション改良版
3. 学会等名 エチオピア諸語研究会2021年度第2回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nakao, Shuichiro
2. 発表標題 Tone in Nub
3. 学会等名 10th World Congress of African Linguistics, Leiden University/Online, June 9, 2021. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakao, Shuichiro
2. 発表標題 Convivial multilingualism as a modern African ethos: cases of East African non-Arab Arabophone societies
3. 学会等名 Institutskolloquium Sommersemester 2021, Institut fuer Ethnologie und Afrikastudien (ifeas) at Mainz University/Online (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakao, Shuichiro
2. 発表標題 Laryngeal contrast in Classical Arabic
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「通言語的観点からみた音声類型論」2021年度第1回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 言語記述と(認知)バイアス：アラビア語クレオールのトーンをめぐって
3. 学会等名 2021年度第5回東京アフリカ言語学研究会 (TALK)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakao, Shuichiro
2. 発表標題 Animal vocabulary in Nilo-Saharan
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「アジア・アフリカ地理言語学研究」2021年度第1回研究会, オンライン
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 「のだ」と 'inna
3. 学会等名 第 40 回関西アラブ研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 エチオピア周辺地域のナイル・サハラ諸語：音韻・統語・語彙的地域特徴
3. 学会等名 エチオピア諸語研究会, 2021年度第1回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 バイリンガリズムを「記述言語学」する：双言語記述の3つのケーススタディ
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「多言語混在状況を前提としたアフリカ記述言語学研究の新展開」2021年度第2回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakao, Shuichiro
2. 発表標題 Crop terms in Nilo-Saharan
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「アジア・アフリカ地理言語学研究」2021年度第2回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 永井正勝・中村覚・和氣愛仁・高橋洋成
2. 発表標題 ヒエラティックとヒエログリフの対応関係の再検討に基づくHieratische Palaeographie DBの更新
3. 学会等名 第125回人文科学とコンピュータ研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村覚・永井正勝・和氣愛仁・高橋洋成
2. 発表標題 Hieratische Palaeographie DBの構築
3. 学会等名 人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2020」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋洋成
2. 発表標題 ヘブライ語の不規則変化名詞類に見られるセゴル型の痕跡：語幹交替を踏まえた新しい語型分類の提案
3. 学会等名 日本オリエント学会第62回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋洋成
2. 発表標題 ハマル語・バナナ語の接尾辞 -n をめぐって：「関係標識」とは何か？
3. 学会等名 第29回日本ナイル・エチオピア学会学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋洋成
2. 発表標題 国際規格 IJF に対応したアノテーション付き動画の作成
3. 学会等名 第1回エチオピア諸語研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林由華
2. 発表標題 琉球諸方言における係り結びに関連する述語動詞形式の交替現象
3. 学会等名 NINJALシンポジウム「係り結びと格の通方言的・通時的研究」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 林由華
2. 発表標題 宮古語における“係り結び”に関連する述語動詞形式の交替現象とソマリ語との関係
3. 学会等名 第1回エチオピア諸語研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 アラビア語「発音」教育に寄せて
3. 学会等名 第39回 関西アラブ研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nakao, Shuichiro
2. 発表標題 Stop Series in Nilo-Saharan
3. 学会等名 The first meeting of the academic year 2020, Joint research project on "Studies in Asian and African Geolinguistics", ILCAA
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 単言語主義言語学を乗り越えるために：双言語記述のすすめ
3. 学会等名 フィールド言語学ワークショップ：第19回文法研究ワークショップ「言語接触の諸問題」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 アフリカのイトスとしてのコンヴィヴィアルなマルチリンガリズム：東アフリカの非アラブ・アラビア語社会を題材に
3. 学会等名 第1回エチオピア諸語研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakao, Shuichiro
2. 発表標題 Grammatical Relations in Nilo-Saharan
3. 学会等名 The second meeting of the academic year 2020, Joint research project on "Studies in Asian and African Geolinguistics", ILCAA
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 乾秀行
2. 発表標題 バスケット語における受動態選択の条件
3. 学会等名 第1回エチオピア諸語研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 NAGAI Masakatsu, WAKI Toshihito, TAKAHASHI Yona & NAKAMURA Satoru
2. 発表標題 Update: Hieratic Database Project (with IIIF system)
3. 学会等名 Aegyptologische "Binsen"-Weisheiten IV, Johannes Gutenberg University Mainz (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤佳那子・高橋洋成
2. 発表標題 聖書翻訳における形式的用法の動詞の訳出：ヘボンら「明治元訳」から「聖書協会共同訳」へ
3. 学会等名 第369回日本近代語研究会・第215回青葉ことばの会，明治大学駿河台キャンパス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 西アフリカ変体アラビア語 アフリカ文字言語史への一視座
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会, 京都精華大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shuichiro NAKAO
2. 発表標題 Did Pre-diasporic Arabic Have Two Ejectives? Evidence from Caucasus, South Arabia and Africa
3. 学会等名 Association Internationale de Dialectologie Arabe, 13th International Conference, Akaki Tsereteli State University, Kutaisi (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 西アフリカ変体アラビア語とその周辺
3. 学会等名 第7回西アフリカ・イスラームノ歴史研究会, 京都精華大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shuichiro NAKAO
2. 発表標題 Swahili influence on Nubi (Arabic creole): An update from Kibera
3. 学会等名 Sociolinguistic Perspectives on Variation in Swahili: New Approaches to the Study of Language and its Social Context in East Africa, Johannes Gutenberg University Mainz (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 ベルタ語における焦点小辞 nyineng
3. 学会等名 「係り結び関連現象の通言語的研究に向けて」研究会, 大阪大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 ベルタ語、ベニシャングル・アラビア語、ジュバ・アラビア語と受動に相当する諸構文
3. 学会等名 2019年度第2回「アフリカ諸言語における受動態の形態統語に関する類型論的比較・対照研究」研究会, 大阪大学, 箕面
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 クレオールを超えて：ナイロビ・キベラにおけるヌビ語・スワヒリ語・シェン
3. 学会等名 2019年度第2回「スワヒリ語諸変種にみられる多様性とダイナミズムへのアプローチ」共同利用・共同研究課題研究会, 東京外国語大学言語文化研究所, 府中
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 林由華
2. 発表標題 琉球諸語の焦点構文の通言語的研究の可能性 ソマリ語との対照を中心として
3. 学会等名 「係り結び関連現象の通言語的研究に向けて」研究会, 大阪大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 乾秀行
2. 発表標題 バスケット語の空間指示表現
3. 学会等名 エチオピア諸語研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋洋成
2. 発表標題 ハマル語における女性・指大接辞 -n の限定用法
3. 学会等名 エチオピア諸語研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋洋成
2. 発表標題 データを公開するときのひと工夫：つながるデータを考える ワークショップ「30年後も使えるデータを目指す」
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永井正勝，和氣愛仁，高橋洋成
2. 発表標題 文字資料を対象とするデータベース構築に適した言語学的記述のあり方について
3. 学会等名 第119回人文科学とコンピュータ研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 和氣愛仁, 永井正勝, 高橋洋成
2. 発表標題 アノテーション付与型画像データベースプラットフォームのIIIF対応
3. 学会等名 第119回人文科学とコンピュータ研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 北東アフリカにおけるアラビア語の動態：コンヴィヴィアル・マルチリンガリズム
3. 学会等名 「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克服 人類の未来を展望する総合的地域研究, 第9回全体会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 ベニシヤングル・アラビア語における放出音：アラビア祖語への示唆
3. 学会等名 エチオピア諸語研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 仲尾周一郎
2. 発表標題 アラビア語諸変種と動詞連続
3. 学会等名 フィールド言語学ワークショップ: 第14回文法研究ワークショップ「動詞連続の諸問題」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林由華
2. 発表標題 ソマリ語と宮古語の焦点構文についての対照研究
3. 学会等名 エチオピア諸語研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuka Hayashi
2. 発表標題 Documenting the rich dialectal variation of Miyakoan
3. 学会等名 NINJAL International Symposium Approaches to Endangered Languages in Japan and Northeast Asia: Description, Documentation and Revitalization
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林由華
2. 発表標題 係り結び現象を生む述語の機能 - 通方言的な視点から
3. 学会等名 日本言語学会第156回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林由華, ケナン・セリック
2. 発表標題 南琉球宮古諸方言における接続形終止用法の機能
3. 学会等名 日本方言研究会第106会研究発表会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

Studies in Ethiopian Languages http://ds22n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~abesha/SEL/ Studies in Ethiopian Languages (mirror) http://jael.info/SEL/ Catalogue of Ethiopian languages https://purl.org/JAEL/ The Ethiopian Language Archive https://dev.jael.info/documentation/ Mirador (Video Annotation Support Version) https://dev.jael.info/mirador3va/ The Ethiopian Language Archive https://dev.jael.info/documentation/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	池田 潤 (Ikeda Jun) (60288850)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	
研究分担者	高橋 洋成 (Takahashi Yona) (90647702)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員 (12603)	
研究分担者	仲尾 周一郎 (Nakao Shuichiro) (10750359)	大阪大学・言語文化研究科(言語社会専攻、日本語・日本文化専攻)・准教授 (14401)	
研究分担者	林 由華 (Hayashi yuka) (90744483)	岡山大学・グローバル人材育成院・講師 (15301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 Workshop on Descriptive studies of Ethiopian languages	開催年 2022年～2022年
--	--------------------

国際研究集会 Workshop on Teaching Materials for Ethiopian Languages	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 International Workshop: Issus and Prospects for Establishing Orthography of Ethiopian Minority Languages	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 International Seminar & Workshop on Ethiopian Languages	開催年 2024年～2024年
国際研究集会 International workshop on Local Knowledge and Education in Ethiopia	開催年 2024年～2024年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
	エチオピア	アジスアベバ大学言語学科	アジスアベバ大学言語文化アカデミー
アラブ首長国連邦	アフリカ研究所		